

<p><b>【教育の特徴】</b>                  一般の中学校・高等学校にあたる前期課程・後期課程の6年間を通じて、異なる言語環境や文化的背景のもとに育った生徒が、能力や適性に応じて弾力的に学ぶ中高一貫校として、教育活動を展開する</p> <p><b>【学校教育目標】</b>                  (1) 言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きる人間形成を図る。                  (2) 個に応じた指導の充実により、基礎・基本を確実に身につけ、それを基に自ら学び、考え、判断し、行動する力を培う。                  (3) 目コミュニケーション能力や異なる文化を理解・尊重する態度など豊かな国際感覚を備え、国際社会に貢献できる力を育てる。</p> <p><b>【学校経営の重点】</b>                  (1) 個に応じたきめ細かな支援                  ①自己実現への支援                  自己の出身国や滞在国内の言語・文化を探究するなど、自尊感情や自己肯定感をはぐくむ学習活動を取り入れるとともに、豊かな共生の心を培い、自己実現に向けた支援を行う。                  ②臨時的で多様なカリキュラム編成と学習支援                  少人数指導や個別指導など、6年間を通じた弾力的で系統的なカリキュラム編成を行い、日本語や日本文化の理解の程度、海外で身につけた語学力や教科内容の理解度等に合わせた、個に応じた学習支援を行う。また、ICTの活用や、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努める。</p>	<p>③主体的な進路実現への支援                  中高一貫校の強みを生かした、トライやるウィークからトライやるワークにつながる体系的なキャリア教育を充実させ、キャリアガイダンス機能を向上し、生徒の主体的な進路実現を支援する。また、様々な語学に関する資格試験に対応した学習指導を行うなど、生徒の個性を生かした資格取得を支援し、後期課程においては取得した資格を単位認定するなど、生徒の達成感や充実感を引き出し、主体的な進路実現への意識を高める。</p> <p>④心の教育の推進                  道徳教育、人権教育、特別支援教育を計画的に推進するとともに、組織的な教育相談・カウンセリング機能を向上させる。また、生徒や保護者の悩みに寄り添い、学校と保護者が連携して命を大切に「心の教育」の充実を図る。</p> <p>⑤交流活動の推進                  他の教育機関や国際交流協会、国際協力機構(JICA)などの関係機関等との連携・交流を図り、多様な学習環境を創造する。</p> <p>(2)開かれた学校づくりの推進                  学校の教育目標や指導計画、日々の教育活動の様子を積極的に発信し、学校や地域の課題を保護者・地域住民と共有するとともに、協働と連携を図りながら、保護者・地域に信頼される教育活動を推進する。</p> <p>(3)働き方改革の推進                  留守番電話の適切な運用、学校閉庁日の実施をはじめとした取組により、長時間勤務の削減に努力する。</p>
---	---

**【本年度の重点項目】 5.0～4.0=A, 3.9～3.0=B, 2.9～2.0=C, 1.9～1.0=D**

領域	重点目標	中間評価			成果・改善点	年度末評価			評価	学校関係者評価・意見			
		点	割合	評価点平均(昨年度)		点	割合	評価点平均(昨年度)					
1 授業力の向上と学習指導の充実	各授業時(間)の目標を明確に示すなど、創意工夫した授業の実践に努める。	5	3.1%	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・iphoneのキーノートを用いている。</li> <li>・授業のはじめに本時の目標、課題を板書して説明し、生徒が授業の意図を理解できるようにしている。</li> <li>・新しいアイデア等を見つける努力をする時間的余裕がとれない。</li> <li>・長期的な見通しに立った授業の流れを示すことが出来なかった。</li> </ul>	5	10.3%	<b>2.9</b>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の立地を把握した上で、学校での防災教育を進めていく必要がある。また、平和教育、命の大切さについても、生徒に何をどのように伝えるのかを考える必要がある。</li> <li>・「本年度の重点項目」、2「情報発信とコミュニケーション」の評価が「C」であることが気になる。教員間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーションについて、また、「専門部の業務評価」、(1)「総務部」、「防災」の評価についても対策を考えるべきである。</li> <li>・中等教育学校の強みとして、中3での受験で学習が途切れることがなく考える力をつけられる反面、緊張感がなく中だるみの時期となってしまうがち。3、4年の時期は生徒の気持ちも揺らぎがちとなる。今後工夫が必要だ。</li> <li>・生徒のアンケート結果で、全体的な経年変化だけでなく、生徒個人の変化が気になる。1、2年の時と比べてどのように変化したのかということについても知りたい。</li> <li>・6年次生が卒業に際し、「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった。」と答えられることが本校の強みである。進路については、結果としては良い結果だが、進路結果が目的ではない。卒業後のネットワークがどう広がっていくのか、一人一人の追跡調査も大切。</li> <li>・子ども多文化共生センターと連携し、交流活動の推進を図ってはどうか。</li> <li>・生徒アンケートの質問事項の順序、記名式のアンケートの方法について一考するべきではないか。</li> <li>・業務別評価の同窓会に関する評価が改善したことは有難い。</li> <li>・国・地域別集会、多文化共生に関する研修の取組を進めてほしい。</li> <li>・学校の設置目的に照らして、今何ができるのかを考えていく必要がある。外部とどうつながっていくのかも課題である。</li> <li>・4月から成人年齢が引き下げられるが、学校としてどのように対応していくのか。</li> <li>・6年次生の生徒、保護者のアンケート結果の「芦屋国際中等教育学校で学ぶことができてよかった」が100%の結果を得たということは、この学校の素晴らしいところで、外部にもつと発信していくべきだ。</li> <li>・アンケート結果で、「学校生活全般を楽しく過ごしていた」のに、「授業について満足していない」生徒が一定数いるというギャップは今後解消していくべきだ。</li> <li>・保護者アンケート結果の3年生で、「子どもを芦屋国際中等教育学校で学ばせてよかった」の設問に対し、「あまり思わない、思わない」と回答した7.9%は気になる。</li> <li>・芦屋市の国際交流協会と交流してみてもどうか。</li> <li>・いろいろな国籍の生徒がいることが、多文化共生を謳う学校にふさわしいと思う。</li> <li>・学校の独自の強みをもっと発信していくべき。そのことが、中だるみを解消していく手立てにもなるのではないか。また、難しい状況の時こそ情報発信をするべき。コロナ禍での学校行事が難しいことを生徒たちは理解しているが、保護者にはそのことが十分に伝わっていないので、保護者はストレスを感じている。積極的に情報発信してほしい。保護者は、学校の様子についてもっと知りたいと思っている。懇親会や保護者会の開催が難しい状況なので、学校での活動を保護者にもっとアピールしてみてもどうか。</li> </ul>			
		4	43.8%			2	58.6%				1	0.0%	
		2	53.1%			1	0.0%				5	10.3%	
	教師からの一方通行の授業ではなく、生徒の活動を重視した授業を取り入れる。	5	3.1%	3.1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的、対話的な学びができる活動を取り入れる工夫をした。</li> <li>・グループワークやパネルディスカッションなどを用いた。</li> <li>・生徒が積極的に発言できるように工夫している。</li> <li>・実験などを授業で行うことが、授業時間数的に難しい。</li> </ul>	5	10.3%	<b>3.3</b>		B		
		4	53.1%				4	48.3%				2	41.4%
		2	40.6%				1	0.0%				5	25.0%
	前期と後期のつながりだけでなく、長期的な展望を持って、授業を計画し、実践する。	5	9.7%	3.3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期の授業を担当したことで前期で学ぶべき内容がよくわかり、そのことが後期の授業でも役立った。</li> <li>・3年に対して、後期課程の授業内容やつながりを提示しながら授業を行った。</li> <li>・3年の3学期から後期の内容を学んでいる。</li> <li>・パソコンのスキルの育成にも取り組んだ。</li> </ul>	4	53.6%	<b>3.8</b>		B		
		4	51.6%				2	21.4%				1	0.0%
		2	38.7%				1	0.0%				5	6.9%
	生徒の習熟度・到達度を意識し、分かる授業、意欲を高める授業の実施に努める。	5	3.1%	3.2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・わかる授業、意欲を高める授業の実践に悪戦苦闘している。</li> <li>・視覚的教材を積極的に提示するなど工夫した。</li> <li>・生徒の理解度を確認するための時間を確保するように心がけた。</li> <li>・小テストの活用方法についてより検討していきたい。</li> </ul>	4	48.3%	<b>3.2</b>		B		
		4	56.3%				2	44.8%				1	0.0%
		2	40.6%				1	0.0%				5	3.4%
	公開授業・研究授業を行うなど、教職員間で協働し、授業改善に努める。	5	0.0%	2.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業、チャレンジウィークを通して、さまざまな意見交換を行うことが出来た。</li> <li>・学年団の道徳の授業を見たことで、自分の指導を見直すのに役立った。</li> <li>・日本語の授業を見学し、今後の授業の参考にしたり、相互助言する機会を多く持つことが出来た。</li> <li>・単元ごとに教科内で話し合いの場を持った。</li> </ul>	4	24.1%	<b>2.5</b>		C		
		4	24.1%				2	75.9%				1	0.0%
		2	69.0%				1	0.0%				5	1.9%
2 情報発信とコミュニケーションの充実	必要な情報を事前に、関係者、及び関係機関に知らせる。	5	4.7%	2.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiの効果的な活用に取り組んだ。YouTubeで生徒の様子を伝えた。</li> <li>・特別支援において、学年、担任と連携することができた。</li> <li>・今後の予定や準備物などについて、生徒が見通しを持ってのように密に連絡することを心掛けた。</li> <li>・教員間の連携で不十分な場面があった。</li> </ul>	5	1.9%	<b>2.8</b>	C				
		4	38.6%			4	37.4%			2	58.9%		
		2	55.9%			1	0.8%			5	0.9%		
	取り組みに関する説明を十分にを行い、説明責任を果たす。	5	4.1%	2.7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期末面談で日々の取組、その成果を保護者に説明することができた。</li> <li>・コロナ禍以降、学校の取組がよりわかりにくくなったとの指摘を受けた。</li> <li>・保護者から、学校の取組について事前の説明が十分になされていないとの指摘を受けた。</li> </ul>	4	29.9%	<b>2.6</b>	C			
		4	30.1%				2	66.4%			1	2.8%	
		2	65.0%				1	0.8%			5	0.0%	
	積極的なコミュニケーションを図り、生徒、保護者、地域等関係機関と連携する。	5	6.7%	2.9		<ul style="list-style-type: none"> <li>・Classiの活用、連絡ノートやto do listを活用し、コミュニケーションを図ることができた。</li> <li>・希望する生徒に対して、放課後補習を行った。</li> <li>・保護者全員とやりとりする機会はなかったが、PTA役員から意見を伺った。</li> <li>・双方向のコミュニケーションが図れていない。</li> </ul>	4	30.5%	<b>2.6</b>	C			
		4	35.8%				2	65.7%			1	3.8%	
		2	56.7%				1	0.8%			5	1.0%	
	結果・成果の通知、学校の情報等を外部へ発信する。	5	0.0%	2.4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年通信の発行を通して行事や普段の取組について発信することができた。Classiに掲載することで学年通信のカラー版を提供することが出来た。</li> <li>・AI発表会の動画もClassiにあげたが、「見ました」を押している保護者の数は3割程度にとどまっている。</li> <li>・取組について外部発信する機会を今後持ちたい。</li> </ul>	4	22.5%	<b>2.4</b>	C			
		4	18.7%				2	68.6%			1	6.9%	
		2	79.4%				1	1.9%					

**【専門部の業務評価】 5.0～4.0=A, 3.9～3.0=B, 2.9～2.0=C, 1.9～1.0=D**

(1) 総務部

項目	平均	昨年	評価
企画・運営	3.6	4.3	B
入学者選考等	3.0	4.0	B
渉外・PTCA・他校等	3.0	4.0	B
広報	3.0	4.0	B
国際交流	3.0	3.3	B
防災	2.7	3.7	C
庶務	3.2	3.8	B
データ整理・管理	3.0	3.0	B

(2) 学習支援部

教務	項目	平均	昨年	評価	進路指導	項目	平均	昨年	評価
	教育課程等	3.8	3.8	B	進路指導	3.6	3.5	B	
	時間割	4.0	3.5	A	体験学習	3.3	3.0	B	
	学籍	4.0	3.5	A	総合的な学習の時間	3.0	3.0	B	
	調査・統計	4.0	5.0	A	項目	平均	昨年	評価	
	教科書・教材	4.0	3.4	A	図書の選定・紹介	3.8	3.8	B	
	新入生テスト	4.0	3.0	A	図書の貸出	3.0	3.0	B	
	学習状況調査・授業評価	4.0	4.0	A	項目	平均	昨年	評価	
	全国学力・学習状況調査	4.0	4.0	A	日本語指導	4.0	4.0	A	
	定期考査・データ処理	4.0	4.0	A	日本語研究	3.7	3.7	B	
	新型コロナウイルス対策関係	4.0	-	A					

(3) 生活支援部

生徒指導	項目	平均	昨年	評価	保健	項目	平均	昨年	評価
	生徒指導全般	4.3	4.3	A	保健	保健活動	4.1	3.8	A
	生徒会活動	4.2	3.8	A		教育環境整備	3.7	4.0	B
	特別支援教育・教育相談	4.5	5.0	A		新型コロナウイルス対策関係	4.0	-	A
	安全指導	4.2	4.0	A		項目	平均	昨年	評価
	庶務	4.0	4.0	A		人権教育	3.3	3.5	B
	式場準備	4.0	4.0	A		道徳教育	3.3	3.7	B
	関係機関等との連携	4.0	4.0	A		項目	平均	昨年	評価
	部活動	4.0	4.2	A		ネットワーク管理	3	4.7	B
	特別指導	4.0	4.0	A		BYODに向けて	3	-	B

(4) 学年・年次  
全般の運営・管理

	平均	評価			
			1年	2年	3年
	3.0	B			
	3.3	B			
	3.5	B			
	3.7	B			
	3.7	B			
	3.7	B			

＜学校評価の改善について＞ 平成23年度の学校評議員会での協議を受けて平成24年度より学校評価を以下の通り改善し、今年度も継続している。

(1) 学校評価の評価項目：評価項目を減らし、重点目標に係る項目のみとする。

(2) 部署ごとの取り組み：担当業務について個々の業務内容について評価を行った後、合算して評価する。

(3) 学校評議員会・学校関係者評価委員会では、重点目標に係る評価のみを協議し、部署ごとの取り組みについては、報告とする。(ただし、著しく評価の低いものについては、次年度の重点項目の一つとして協議する。)

(4) 年度末の学校評価シートについては、重点目標と部署ごとの項目の評価を記載する。